

伝統芸能

はな つづみ 花鼓

この十年あまり、パリに住る。その隣に続くオーテルフランス人の知人は週一、イトリアムホールが今回の会場だ。当初、知人は「ここでいる。それでも全作品を鑑賞し尽くせないでいる、という。いた。」

その世界最大級の歴史あるこの公演は、日仏友好一五〇周年を記念した催しで、公演が行われた。美術館前広場に行われた。美術館前広場にそびえたつガラスのピラミッド。中に入り、長いエスカレーターを降りていくと、与えられた吉田舞助師が、そのナポレオンホールが広角にひ

文楽太夫 豊竹英大夫



熱気あふれる仏公演

初)の人数を減った。招待者五百人あまりが見守る中、なんとかお初を語り終えることができて安堵。

翌日からはエッフェル塔に程近い日本文化会館で、パリ四日間、ストラスブール二日間のフランス公演の幕が開いた。演目は「二人三番」「狐火」「日高川」(英大夫・鶴沢燕三・桐竹勘十郎ほか)。チケットは完売で、客席は連日超満員。ほとんどがフランス人で熱い視線に包まれた。

こちらに来て驚くのは、男性客の多さとその感度度である。ル・ブル終演後のカクテルパーティーでは、数人のフランス人男性に囲まれた。彼らは、本番に先立って行われた「太夫解説」の折、幼女とサムライの語り分けを聴いただけで感動し、本番では「情景や人物を鮮やかに描写するジョーリリに身震いした」と話してくれた。

このエッセイが掲載される日、ストラスブールの舞台上で公演の千秋楽を迎える。